

北高木遺跡



2014年3月
富山県埋蔵文化財センター

 富山県

北高木遺跡の位置と調査

北高木遺跡は富山県西部の射水平野の西側にあります。付近は平坦な地形で標高約3～4mを測り、現在は企業団地が広がっています。

遺跡は、平成3年から6年にかけて、北から順にA～Eの5つの地区に分けて調査しました。調査では、原始（縄文時代晩期、古墳時代）、古代（奈良時代、平安時代）、中世（室町時代）の遺構と遺物が見つかりました。特に、古代の掘立柱建物や井戸・溝、中世の井戸や鋳型を投棄した溝などは注目すべき調査成果です。



北高木遺跡の位置



周辺の遺跡

周辺には、越中国府関連遺跡をはじめ、北高木遺跡と同様な祭祀遺跡の下佐野遺跡・赤田I遺跡・南太閤山I遺跡・豊田大塚遺跡、船着遺構が確認された中保B遺跡、生産拠点の小杉流通業務団地内遺跡群など古代の重要な遺跡が集中しています。

■ 周辺の遺跡（古代の遺跡）

番号	遺跡名
A	北高木遺跡（射水市）
1	越中国府関連遺跡（高岡市）
2	中保B遺跡（高岡市）
3	下佐野遺跡（高岡市）
4	井口本江遺跡（高岡市）
5	赤田I遺跡（射水市）
6	小杉流通業務団地遺跡群（射水市）
7	南太閤山I遺跡（射水市）
8	黒河尺目遺跡（射水市）
9	豊田大塚遺跡（富山市）



原始の北高木遺跡

縄文時代のようす

縄文土器がA地区を東西に流れる川の中から見つかりました。元の形を復元できるものはありませんが、多くは深鉢と言われる土器の破片でした。編み物痕の残る土器の底のほか、東北地方などで見つかる土器の模様と同じものが見つっています。



古墳時代のようす

C・D地区で古墳時代の遺構・遺物が見つかりました。遺構は溝や穴が確認できました。溝の周囲には、当時使われた土器（土師器）が多くは重なり完全な形で見つっています。見つかった土器には甕、小甕、器台などがあり、器台は赤く塗られていました。このことから古墳時代から一部祭祀の場として使われていたことがわかります。



古墳時代の土師器

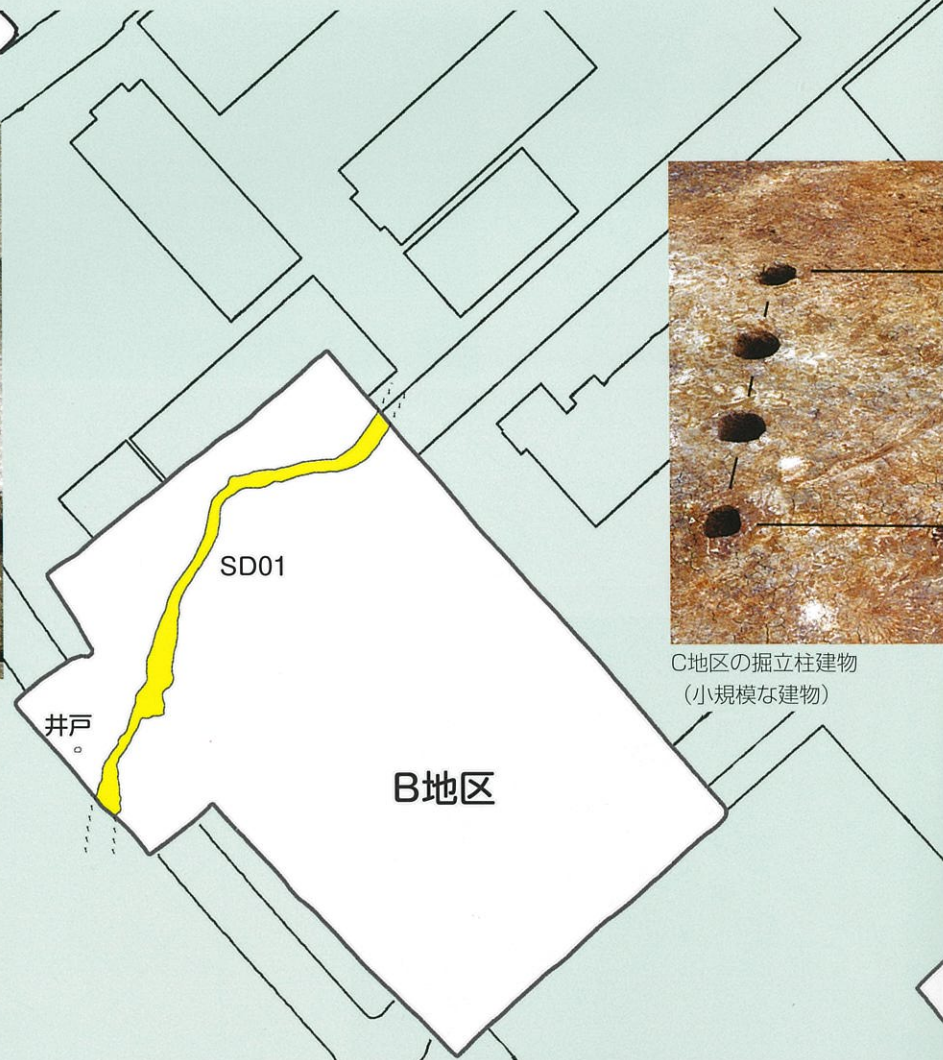
古代の祭祀場 北高木遺跡

まじないの場

奈良時代になると、この遺跡は公的な祭祀の場となり、掘立柱建物、井戸、溝が作られました。溝は地形に逆らい流れている部分があることから人為的に作られたものです。特にC・D地区を流れる溝は、埋まるたびに掘り直されており、大切に使用されていたことが判ります。



B地区の溝



井戸

井戸はB地区で見つかりました。井戸は素掘りで直径90cm・深さは1.8mありました。



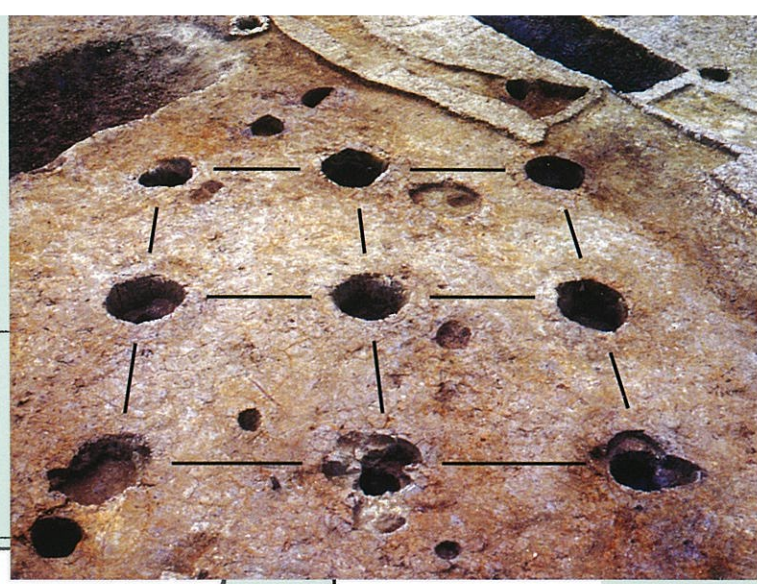
B地区の井戸



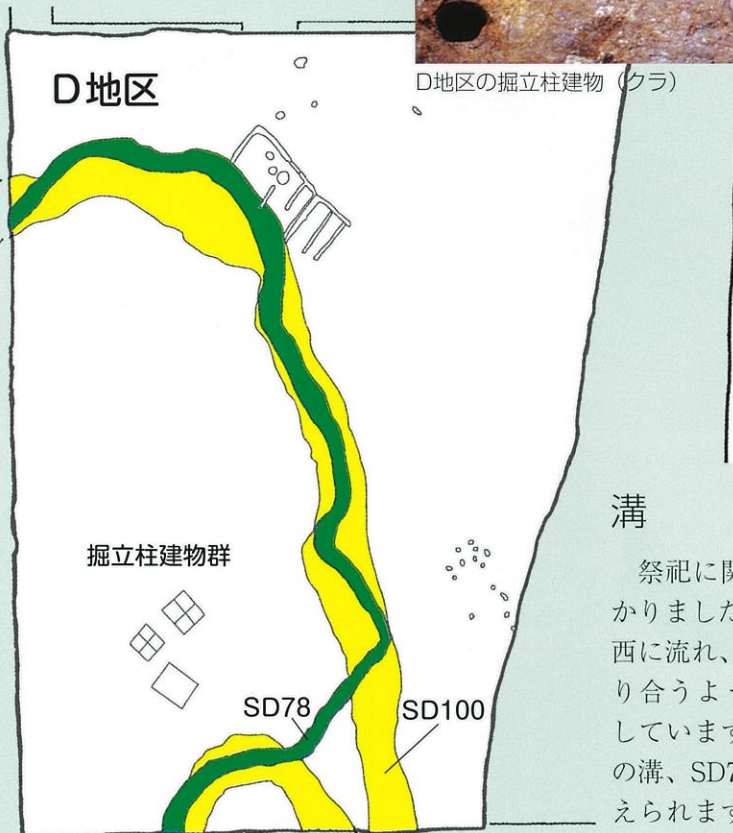
C地区の溝

掘立柱建物

C地区・D地区の2箇所で見つかった建物群について。C地区の建物群は、溝の北西側にクラと考えられる建物が1棟、その他小規模な建物が4棟見つかりました。D地区の建物群は、溝の西側にクラと考えられる建物が2棟、その他小規模な建物が2棟見つかりました。



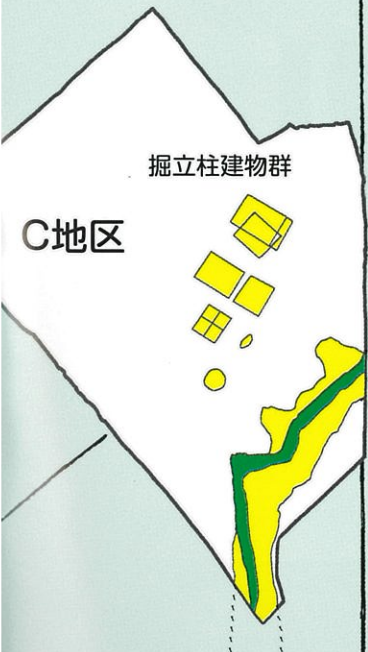
D地区の掘立柱建物（クラ）



E地区

溝

祭祀に関係した溝が3条見つかりました。SD01はB地区を東西に流れ、SD100とSD78は重なり合うようにC・D地区を北流しています。SD100は奈良時代の溝、SD78は平安時代の溝と考えられます。これらの3条の溝からは祭祀に関する土器や木製品が多く出土しました。



- 凡例
- 奈良時代
 - 平安時代



D地区の溝

祭祀の道具

祭祀の道具には、木製品、土器・土製品、鉄製品があります。木製品には物を形どった模造品（斎串・人形・鍬形・舟形・馬形・鳥形・琴形・陽物）と棒ささら、編木ささらがあります。土器・土製品では、人面墨書土器、墨書土器、土器が祭祀に使われました。鉄製品では、鑰・鍬・鍬先がありました。



斎串

薄い木の板の上部を三角形に切り出し下部を尖らせた木製品です。北高木遺跡では、200点以上出土し、大きいもので長さ50cm、小さいもので長さ9cmです。斎串は、祭事を行なう場に災厄神などが入らないように結界を張るための道具で、北高木遺跡でも斎串で囲まれた範囲内からいくつかの人形が見つかっており、当時の祭祀の姿を垣間見ることが出来ます。



人形

人形は、薄い板を人の形に切り抜いた木製品です。人の身代わりとして災厄を避けるための祓い物の一つです。現在でも神社などで人形の紙に自分の具合の悪いところなどを書き記します。北高木遺跡からは30点出土し、すべて正面から人の全身を表現したものです。写真左側の頭部だけのものは高さ約7cmで頭部に冠を木への切込みで表現する丁寧な作りです。顔は墨で表現します。他の人形は頭部を三角形に切り出すことで冠とします。



鍬先

北高木遺跡から1点出土しています。大祓いの祭器の一つに鍬もあることから祭祀の道具として使われていたと考えられます。



鍬形木製品

鉄鍬をかたどった木製品です。北高木遺跡からは3点出土し、つくりは一樣ではありません。写真のものは先端部を失っていますが、茎子や固定用の釘穴など丁寧に作り、下の鉄鍬と比べても忠実にコピーしていることが窺えます。



編木ささら

札状の木製品で、複数枚紐でとじ合わせて楽器（編木ささら）とします。国宝『鳥獣人物戯画』には編木ささらを鳴らすカエルが描かれています。



琴形木製品

長さ14.1cm、幅2.4cmの琴のミニチュアです。完形品で、両端部の糸かぎりを丁寧に作ります。



鍬

魔を払う道具で、清めの儀式に用いられます。



棒ささら

北高木遺跡からは2点出土。擦り合わせることによって音を出す楽器です。『融通念仏絵巻』には、「ささらすり」の人物が描かれています。



人面墨書土器

人面墨書土器は自分の顔もしくは災厄神を描いたものといわれています。紙で蓋をし、底に穴をあけ、そこに息を吹きかけて穢れを閉じ込めたと考えられています。北高木遺跡からは5点出土し、2面ないし3面の顔が描かれています。狭い範囲で出土したことから、まとめて使用したと考えられます。



墨書土器

北高木遺跡から、人名や施設名、吉祥句、則天文字が書かれ130点出土しています。「秋」などは「秋麻呂」の略と考えられ、土器の所有者と考えられるほか、「小野殿」「庄」など施設の名称が記されます。「納」「十」「富」「十三」などの文字が書かれました。墨書だけでなく、線刻や漆書きなどがあります。



舟形木製品

舟をかたどった木製品で、流すことで穢れを払うものと言われています。北高木遺跡から13点出土しています。写真の左のものは長さ10.7cmで、和船風の作りで両舷に連続した穴が開けられています。なお、北高木遺跡で出土したもので最も大きいものは長さ40cmを測ります。



鳥形木製品

飛ぶ鳥を表現していますが、真ん中に大きな穴が開けられ、その下に固定用の釘穴があります。中央の大きな穴は他の遺跡では見られない加工で北高木遺跡での特徴と言えます。



馬形木製品

馬は、神の乗り物ですが、災厄神が乗った場合は疫病をもたらす使いとなります。また、水を大量に飲むことから雨を司る神とも崇められます。北高木遺跡は4点出土しています。写真のものは飾馬で、墨書によって手綱などを丁寧に描かれています。他のものは裸馬です。用途は、鞍を中心として串を刺し、地面に立てたものです。



陽物形木製品

男性器をかたどった木製品で、子孫繁栄の象徴的な道具です。北高木遺跡から2点出土しています。写真のものは長さ16.8cm、幅2.0cmです。

コラム - 則天文字 -



古代中国で則天武后（唐代の女帝・623-705）が考案した文字。中国では武則天の没後、使われていない。写真の文字は「天」を表すもので、呪術的な意味を込めて使われた。



打ち欠きのある土器

日常的な須恵器の坏や蓋、土師器の坏や椀などの一部を故意に壊すことで、祀りの道具とします。

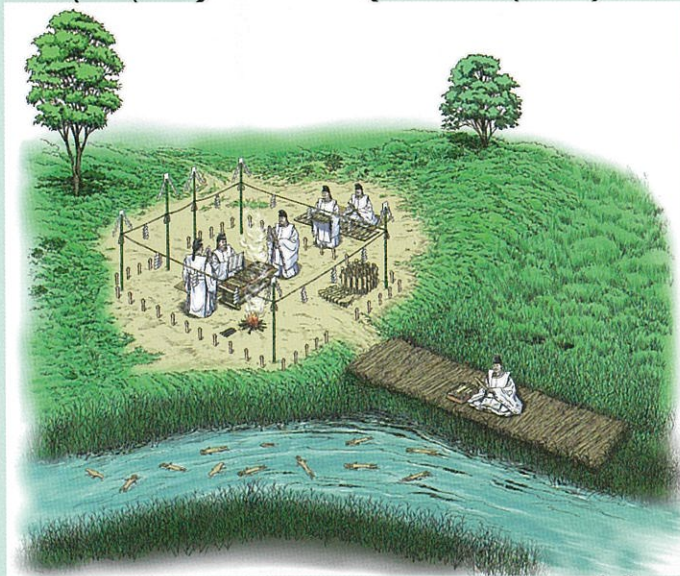


鑰

倉庫の鍵と考えられます。石川県七尾市にある印鑰神社にはこのような鑰が祭神として伝わるなど祭器としても使われました。県内では富山市任海宮田遺跡から出土しています。

祭祀のようす

奈良時代の人々は、疫病の流行や自らの体の変調まで、「わざわい」と考えてきました。この遺跡では、わざわいを取り除くため、遺構・遺物から国家的祭祀が行なわれていました。祭祀では人形、人面墨書土器など様々な道具が使われていました。



古代祭祀のようす（兵庫県考古博物館提供）

祀りを行なう人々

祭祀を行なう中心は陰陽師おんみょうじです。特に奈良時代になって律令制度が定められると、その中に陰陽寮が置かれました。ここに陰陽師は属しながら、都での任務のほかにも国司とともに地方の国府へと赴任しました。



人形

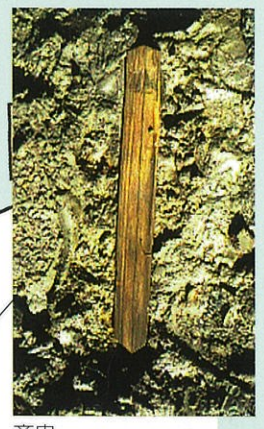


B地区の祭祀

SD01は最大幅5 mでほぼ東西方向にやや北側に屈曲しながら流れています。須恵器の甕の破片や墨書土器の破片が流れの中に散乱していました。いくつかの土器片は、接合できることから、故意に割って、この溝に入れたことが判ります。井戸と溝から同じ坯の破片が出てきました。このことから、人為的に井戸と溝に入れられ、なおかつ、祭祀の場の一つとして使われていたことが判ります。



B地区の土器



地区の祭祀のあと

人形

斎串



C・D地区の祭祀

SD100とSD78の流れを同じくする溝2本が見つかっています。SD100は、最も狭いところでも6m程度の幅をもつ大きな溝で、大きく蛇行しながら北流しています。溝内の数ヶ所に祓いを終えた土器や木製品をまとめて投棄しました。また、土器の多くは割られておらず、使われたままの姿で見つかっています。溝の一部には杭を連続して打接しており、栈橋のような構造物がありました。D地区の掘立柱建物群の前で祭祀を行ない、この場所などで投棄したことがうかがえます。またSD78は平安時代の土師器が多く見つかったことから、土器だけの祭祀が平安時代に行なわれました。

このことからこの溝は、祭祀の場であるとともに、祓いを終えた道具を流す場として使われました。

コラム - 祓い -
 古代の祭祀で、罪や穢れ、災いを祓うもので、国家的祭祀として行なわれた。特に、6月と12月の晦日に行なうものを大祓いと言います。6月の大祓いを夏越の祓、12月の大祓いを年越の祓ともいう。



人形



D地区の祭祀のあと

その他の遺物

祭祀遺物以外の遺跡の性格を示す出土遺物としては版木状木製品や木簡があります。紙が貴重だったこの時代、木簡は文字を記すノートの代わりに使われました。出土した木簡の種類には、当時の税制を示した「出挙木簡」や文字や文章を練習した「習書木簡」、「荷札木簡」、「帳簿木簡」があります。

版木状木製品

D地区の溝の底で見つかりました。栗の板の両面に9つの模様が見ることができます。9つの模様のうち、7つは植物の模様で、キキョウなどの花や草などを表しています。他の2つは動物文（長い耳からウサギか）と、山（または岩）と考えられます。使い方としては、この浮彫りの上に染料をのせ、布などをあててバレンで擦り出しながら模様を転写した版木と考えられます。なお、この板の長辺は38cmですが、当時の布の規格の約半分程度なのも興味が惹かれます。



出挙木簡

奈良時代の貸付制度である「出挙」に関する木簡です。「…本利併せて75束…」との記述から貸付けた種籾が50束で、利息が25束（利率50%）、併せて75束となることが判ります。利率が50%であることから公出挙であったことが判ります。B地区とD地区から2点見つかっています。

表面 … (貸し付けた籾と) その利息分をあわせて75束、また同じく利息は…
裏面 … 50束…



表面・×本利并七十五束又本利

裏面・□□束十五又□□×

コラム - 出挙 -

古代、農民への稲の種籾や金銭・財物を貸し付け、利息とともに返還させた制度です。国が貸し付ける公出挙と私人が貸し付ける私出挙とがありました。利率は公出挙が50%、私出挙が100%まで認められていました。

習書木簡

D地区から2点見つかっています。文字や文章の練習をした木簡ですが、この木簡には複数の女性が道の神に3月10日に願ったことが判りますが、願った内容は欠落しています。

表面 道長の大神に進上申す3月10日。
兄江の富継天女と建部の乙成女が生んだ子である兄江の千仁女が大神に対して解し申すには神…
裏面 品治部の他当女が大神に進上申し事は件の如し、3月10日。



裏面・品治部他当女大神進上申事如件三月十日

表面・道長大神進上申 三月十日

兄江富継天女建部乙成女生子兄江千仁女大神解申神×

帳簿木簡

「浦万呂」ほか5名の人物により「6月27日」に作物を持ち寄ったことが書かれています。



荷札木簡

文字通り内容物を示した木簡です。「小黑」が6升あることが判ります。

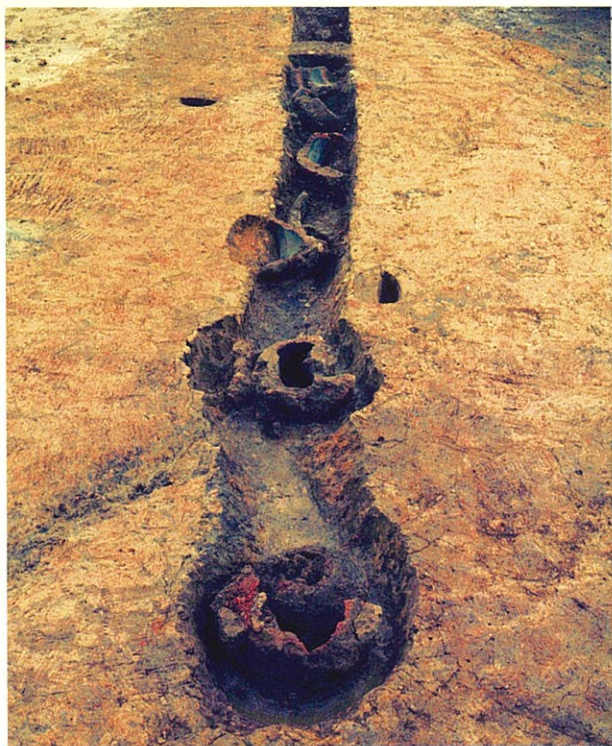


中世の北高木遺跡

この遺跡で見つかった室町時代の遺構には、井戸の他、幅30cm、長さ5mの溝が数本並行して見つかっています。一部の溝や井戸には鋳型が廃棄されていました。

鋳型

茶釜と鉄鍋の鋳型が井戸や溝の中に廃棄されていました。最古の鋳造方法とされる「双形技法」によるものです。この技法は円形で単純な鋳物をつくるのに適し量産にむく方法とされています。この鋳型は現在、溝ごと切取保存され当センターで展示しています。



D地区の鋳型の出た溝



井戸

室町時代の井戸です。崩落を防ぐため、大きな掘り方をつくったのち、大型の曲物を数段重ねて井戸枠として使っています。この井戸のうち1基は鋳型と同様に切取保存し、当センターで展示しています。



D地区の井戸

北高木遺跡

発行日 平成26年(2014)3月31日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115

富山市茶屋町206番3号
TEL 076-434-2814
FAX 076-434-2859

印刷 中村印刷工業株式会社

このパンフレットは、文化庁の地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業の補助を受けて作成しました。